

「東海第二原発の再稼働に反対する那珂市民の会」 記者会見レジメ

1 東海第二原発の危険性

現在、運転を停止している日本原子力発電株式会社東海第二発電所（以下、「日本原電」「東海第二原発」と表記）は、1978年に営業運転を開始してから40年を経過した老朽原発であり、東日本大震災による被災原発でもあります。地震による津波がもう少し高ければ、全ての電源が失われて福島第一原発と同じ状態になったと想定されます。このことは、日本原電自体が「（冷却機能が全て失われた）福島第一の事態になった可能性は否定できない」と認めています。

東海村の山田修村長は、2019年10月に発行された雑誌の対談で、BWR（沸騰水）型原子炉の再稼働を認め、東海第二原発の再稼働を容認する趣旨の発言を行いました。対談の中で、山田村長は、原発に否定的な人に対して「全ての外部電源を遮断して自家発電だけで生活してもらわなくてはならない。自宅から一步も出てはいけない」「新規制基準が出来て、ものすごい安全対策が二重、三重に出来ているのですから、論理的に考えれば、…同じような事故はまず起こらない」と発言。一方、原子力規制委員会の更田豊志（ふけたとよし）委員長は、2019年11月13日の定例記者会見で、東海第二原発の安全性に関して「絶対に（安全と）申し上げるつもりはない」と否定しました。これは、山田村長のような楽観論に対し、安全審査に合格したとしても、東海第二原発には、運転再開に伴う危険性が否定できないことを示すものです。

2 東海第二原発の立地

東海第二原発は、30キロ圏内に約94万人の人口を抱えています。これは、日本の原発周辺としては最も多い人口です。30キロ圏内の人口が約14万人（2005年）であった福島第一原発の約7倍の人口となり、事故が起きた場合の人的・物的被害は、福島第一原発の事故を大きく上回るものとなることは、言うまでもありません

3 再稼働に対する周辺自治体の姿勢

2018年3月に、日本原電は周辺6市村（東海村、日立市、常陸太田市、那珂市、ひたちなか市、水戸市）と安全協定を結ぶほか、2019年2月には、上記6市村以外

で、東海第二から30キロメートル圏にある8市町村と意見表明を可能とする新協定を結びました。対象は常陸大宮市、大洗町、城里町、高萩市、笠間市、鉾田市、茨城町、大子町で、協定に署名しない小美玉市も同等の権限を持ちます。

これらの自治体、特に議会の動きを俯瞰しておきます。

• **小美玉市議会（2012年3月）**

「東海第二原発の廃炉を求める請願」の採択

• **高萩市議会（2012年6月）**

「東海第2原発の廃炉を求める意見書」

• **茨城町議会（2017年6月）**

「運転開始から40年を超えた東海第二発電所の運転期間延長を行わないことを求める意見書」

• **常陸太田市議会（2018年3月）**

「『東海第二原子力発電所の20年延長稼働に反対する意見書』の採択を求める請願」の趣旨採択

• **水戸市議会（2018年6月）**

「東海第二原子力発電所の住民理解のない再稼働を認めないことを求める意見書」

• **常陸大宮市議会（2018年9月）**

「東海第二原発の住民同意のない再稼働に反対する意見書」

日本原電と協定を結んでいない自治体においても、次の市町村議会において、東海第二原発の再稼働に反対する意見書ないし請願の採択が行われています。

土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、下妻市、取手市、牛久市、鹿嶋市、守谷市、桜川市、つくばみらい市、北茨城市、笠間市、つくば市、筑西市、古河市、常総市、結城市、阿見町、八千代町、五霞町、境町、利根町、美浦村

4 那珂市の特殊性

上記の自治体と比較して、那珂市には、特殊性があります。それは、住民の東海第二原発の再稼働に関する意識調査を、自治体が住民アンケートという形で行ったという点にあります。他の自治体では、行われておりません。

那珂市は、2016年に「市民アンケート」の項目として、東海第二原発の再稼働問題を取り上げ、次のような設問を設けました。

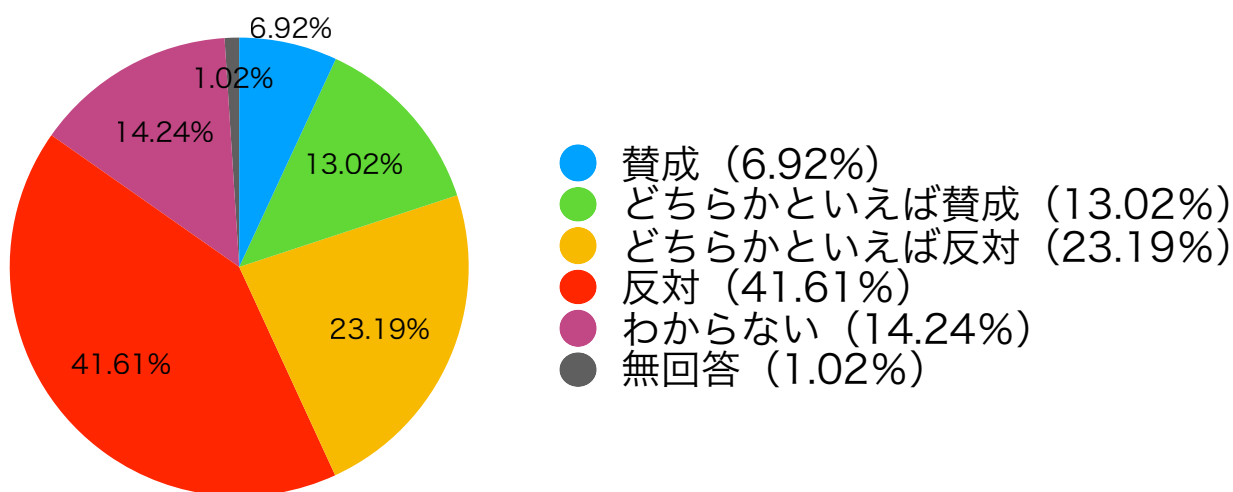
「問6 安心・安全なまちづくりについてお聞きします。」の④として

東海村に立地する「日本原子力発電（株）東海第二発電所」は、現在、国の新規制基準に係る適合性の審査を申請しています。今後、原子力規制委員会から適合性が認められた場合、再稼働について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対
- 5 わからない

アンケートの結果は、次の通りです。

NO	選択肢	回答数	構成比
1	賛成	68	6.92%
2	どちらかといえば賛成	128	13.02%
3	どちらかといえば反対	228	23.19%
4	反対	409	41.61%
5	わからない	140	14.24%
	無回答	10	1.02%
	合計	983	100.00%



5 市民アンケート結果が示すもの

アンケートの設問に、「原子力規制委員会から適合性が認められた場合」という前提が付けられている点が、注目されます。抽象的に、東海第二原発の危険性に対する意識を問うていたわけではありません。安全審査に合格し、再稼働が可能な状況を前提としての問いなのです。

アンケートの回答結果は、「賛成」と「どちらかといえば賛成」が約20%（19.94%）に対し、「反対」と「どちらかといえば反対」が約65%（64.8%）となり、再稼働に反対する市民の声が圧倒的に多いことが分かります。

市民アンケートの結果を見る限り、那珂市民の東海第二原発の再稼働に関する意識は、安全審査に合格したとしても再稼働に反対であると言えます。

2016年の市民アンケートは、市が住民の意識・意見を市政に反映させる目的で行ったものであり、首長と議会は、これを尊重すべき立場にあります

2018年10月に、**海野徹前那珂市長が、東海第二原発の再稼働について、反対を表明**しましたが、これは、市民アンケートに示された、**再稼働に反対する住民の意志を尊重**して行われたものであると考えられます。

6 「東海第二原発の再稼働に反対する那珂市民の会」の活動

一 那珂市議会への陳情と議員等への公開アンケートの実施 一

「東海第二原発の再稼働に反対する那珂市民の会」は、こうした市民アンケートの結果を踏まえて結成された市民団体です。特定の政党や宗教団体との関係はありません。市民アンケートに示された、東海第二原発の再稼働に反対する市民の声が、市政に反映されるようになって欲しいという思いで活動を行なっています。

活動の一環とし、2019年11月には、市議会に対して「東海第二原発の再稼働に反対する陳情」を行いました。2019年12月13日に、原子力安全対策常任委員会で陳情の趣旨説明を行い、6名の議員によって審議されましたが、陳情に賛成する議員は1名で、継続審査となりました。

この陳情に付随して、那珂市議会の全議員を対象として、再稼働に関する公開アンケートを実施しました。私たちは、東海第二原発の再稼働が市政において極めて重要な問題だと考えており、現職の議員に加えて、過去1年間の地方選挙の立候補者も、アンケートの対象に加えました。年末の多忙な時期にも関わらず、多くの方から回答を頂くことができました。なお、アンケートは、12月20日に発送し、12月27日を〆切としました。

本日は、公開アンケートの結果を報道機関各位にお知らせするために、記者会見を行わせて頂きました。

7 「東海第二原発の再稼働に関する公開アンケート」設問

東海第二原発の再稼働に関する公開アンケート

- 1 あなたは「東海第二原発再稼働」は市政の重要課題だと思いますか？
ア. 重要でない イ. あまり重要でない ウ. どちらともいえない
エ. どちらかと言えば重要だと思う オ. 重要だと思う

- 2 あなたは「東海第二原発再稼働」に賛成ですか、反対ですか？
ア. 賛成 イ. どちらかと言えば賛成 ウ. どちらとも言えない
エ. どちらかと言えば反対 オ. 反対

- 3 上の「ウ どちらとも言えない」という方におうかがいします。あなたが判断できないのはどのような理由からですか？（複数回答可）
ア. 賛成反対の議論が尽くされていない。
イ. 利益と損失の可能性について判断できない。
ウ. 身近に利害関係者がいる。
エ. 難しい問題なので検討中（ 頃までに結論を出したい）
オ. その他の理由 自由にお書きください。

8 「東海第二原発の再稼働に関する公開アンケート」回答

公開アンケートの結果は、那珂市議会議員と過去の立候補者を分けて掲載します。また、掲載の順番は、五十音順とします。

○那珂市議会議員○

・石川義光議員

設問1 オ（重要） 設問2 ウ（どちらとも言えない）
設問3 ア（賛成・反対の議論が尽くされていない）

・勝村晃夫議員

設問1 エ（どちらかと言えば重要） 設問2 エ（どちらかと言えば反対）

・君嶋寿男議員

無回答でお願いしたい

• **小池正夫議員**

設問1 エ（どちらかと言えば重要） 設問2 ウ（どちらとも言えない）

設問3 ア（賛成反対の議論が尽くされていない）

• **小泉周司議員**

設問1 オ（重要） 設問2 ウ（どちらとも言えない）

設問3 ア（賛成・反対の議論が尽くされていない）

• **笹島猛議員**

設問1 エ（どちらかと言えば重要） 設問2 エ（どちらかと言えば反対）

• **筒井かよ子議員**

無回答でお願いしたい

• **寺門厚議員**

設問1 オ（重要） 設問2 オ（反対）

• **富山豪議員**

設問1 オ（重要） 設問2 未記入

• **中崎政長議員**

無回答でお願いしたい

• **萩谷俊行議員**

設問1 ウ（どちらとも言えない） 設問2 ウ（どちらとも言えない）

設問3 オ（その他／首長懇談会の結果を重視している）

• **花島進議員**

設問1 オ（重要） 設問2 オ（反対）

• **古川洋一議員**

設問1 オ（重要） 設問2 ウ（どちらとも言えない）

設問3 ア（賛成・反対の議論が尽くされていない）

○過去1年間の選挙の立候補者○

• **武藤博光氏**（2018年12月県議選立候補者）

設問1 オ（重要） 設問2 オ（反対）

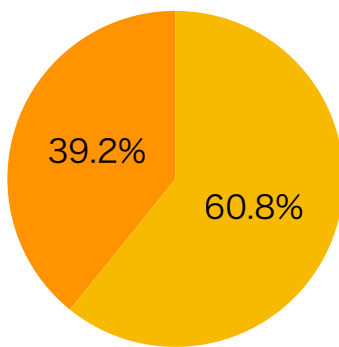
<未提出>

那珂市議会議員 木野広宣議員、助川則夫議員、關守議員、福田耕四郎議員、綿引孝光議員の5名が未提出

2018年12月県議選立候補者 2名が未提出
2018年12月市議補選立候補者 2名が未提出

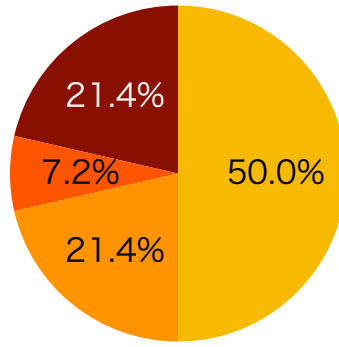
9 アンケート結果の分析

アンケートの提出状況



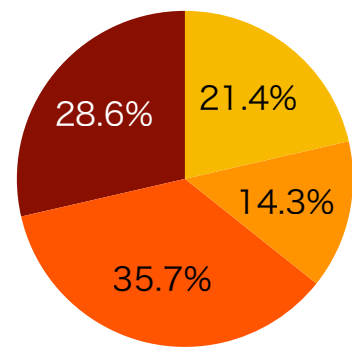
● 提出(60.8% 14人)
● 未提出(39.2% 9人)

[設問1] 再稼働の重要性



● 重要(50.0% 7人)
● どちらかといえば重要(21.4% 3人)
● どちらとも言えない(7.2% 1人)
● あまり重要でない(0% 0人)
● 重要でない(0% 0人)
● 無回答(21.4% 3人)

[設問2] 再稼働への賛否



● 反対(21.4% 3人)
● どちらかといえば反対(14.3% 2人)
● どちらとも言えない(35.7% 5人)
● どちらかといえば賛成(0% 0人)
● 賛成(0% 0人)
● 無回答(28.6% 4人)

年末の多忙な時期に行ったアンケートであることを考えると、回収率約61% (60.8%) は、この問題に関する議員等の意識の高さを示すものと言えます。

東海第二原発の再稼働の問題の、市政における重要性の認識も、「重要」と「どちらかといえば重要」の合計が約71% (71.4%) となり、高いと言えます。

一方、再稼働の賛否に関しては、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が、約36% (35.7%) であり、2016年に行われた市民アンケートの結果と大きく乖離しています。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」は0%ですが、未提出者が全体の約39% (39.2%) おり、無回答という形で提出した議員もおりますので、「賛成」と「どちらかといえば賛成」が、0%とは断言できません。

また、「どちらともいえない」という回答が約36% (35.7%) で最多でした。その理由として、「賛成・反対の議論が尽くされていない」という理由が挙げられていますが、東日本大震災から9年近くが経過し、日本原電が再稼働への意欲を示す中で、賛否の議論を徒らに先延ばしすることを、市民は望んでいません。

以上の点から、那珂市議会の状況は、東海第二原発の再稼働に関して、市民の意識を十分に反映しているとは言えません。

市議会議員の意識が、住民の意識と乖離していることは、再稼働に対する陳情等の扱いにおいて示されています。

「東海第二原発の再稼働に反対する那珂市民の会」が、昨年11月に提出した「東海第二原発の再稼働に反対する陳情」は、原子力安全対策常任委員会で審議され、賛成議員1名で継続審査となりました。2016年の市民アンケートに示された「反対」と「どちらかといえば反対」が約65%（64.8%）という結果を、議会が考慮していないことの表れです。**これは、住民アンケートを行っていない他の周辺自治体ですら、再稼働に反対する意見書や請願を採択していることと比べて、極めて特殊な状況だと言えます。**

私たちは、重大な事故が起きれば「全市民の避難」が想定される東海第二原発の再稼働は、市民の生命と生活を守る上で大きな問題があると考えており、今後も市議会への陳情・要請などの働きかけを行っていきます。

東海第二原発の再稼働に反対する那珂市民の会

代表 小山祐子

311-0117 那珂市豊喰32-9

Tel 090(9809)7812

Fax 029(298)8136

<https://saikadososhi.jimdofree.com>

y-koyama777@softbank.ne.jp